

【取扱い厳重注意】

平成23年12月26日

聴取結果書

東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会事務局

局員 飯崎 準

平成23年12月22日、東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証のため、関係者から聴取した結果は、下記のとおりである。

記

第1 被聴取者、聴取日時、聴取場所、聴取者等

1 被聴取者

原子力安全・保安院原子力安全技術基盤課統括安全審査官 牧 慎一郎

2 聴取日時

平成23年12月22日16時30分から同日17時30分まで

3 聴取場所

経済産業省別館5階会議室

4 聴取者

飯崎補佐

※ 複数人で聴取したときは、全員の氏名を記載する。

5 ICレコーダーによる録音の有無等

あり

なし（理由：（「対象者の希望による。」など簡潔に記載））

第2 聴取内容

小児甲状腺被ばく調査について

別紙のとおり

第3 特記事項

なし

以上

【取扱い嚴重注意】

別紙

1 被聴取者の身分

牧統括安全審査官は、文部科学省科学技術政策研究所企画課長の任に就いていたが、3/25～3/30まで現地対策本部医療班に派遣され、主に子供の甲状腺被ばく調査の現地アレンジを実施していた者である。

2 3/25から3/30までの現地における活動について

3/25 に、原子力安全委員会から、SPEEDI の逆推定結果に基づき小児甲状腺等価線量が 100mSv を超えると推定される地区の 0 ～ 15 歳までの子供の甲状腺被ばく調査をするよう依頼があった。

SPEEDI 結果では、福島第一原発から北西及び南方向に高い数値が推定されているが、このうち、20km 圏内は避難指示が、30km 圏内は屋内退避指示が出ていたことや、広範なエリアに対して、対象となる人探しをしている時間はない（放射性ヨウ素の半減期は一週間程度であることから、早期に調査しなければ、正確な被ばく線量が計測できない）ことから、甲状腺調査は 30km 圏外に絞ることになり、いわき市、川俣町及び飯館村で調査をすることになった。この判断は、現地対策本部で行っている。南相馬市も 30km 圏外で SPEEDI による高い値が推定されていたが、この当時の文科省によるモニタリングデータからは、飯館村の環境放射線量が高いことが分かっていた一方、南相馬市はそれほど高くなかったことや、町や村での調査と異なり、南相馬市という大規模な市での調査は時間がかかるだろうとの考えから、この時の調査から南相馬市は除外し、飯館村の調査を最本命として計画を立てた。

まず、3/26～3/27 にいわき市で調査を行ったが、いわき市の場合、対象人数が多いことが想定されたので、事前に声かけをする方法ではなく、いわき市保健所に設置されていたスクリーニング会場に来た人のうち、対象となる年齢の子供の甲状腺被ばく調査を実施することとした。この時は、2 日間で 134 人を測定している。

次に、3/28～3/29 に川俣町公民館で測定を行った。原子力安全委員会からの要請では、小児を測定する際のスクリーニング基準値を $0.2\mu\text{Sv/h}$ としていたが、環境放射線量がこの数値より高い場合、正確な甲状腺の被ばく量を算出するのが難しくなる。川俣町保健センターで $0.2\mu\text{Sv/h}$ を上回り、南部の山木屋地区では $0.2\mu\text{Sv/h}$ を大幅に上回るなど、環境放射線量がやや高めであったため、 $0.2\mu\text{Sv/h}$ を下回る場所を探した結果、川俣町公民館の 2 階廊下部分の線量が低いことが分かり、ここで測定することとした。

川俣町での調査に当たって、事前に町職員から町民に対して調査場所と調査日時のアナウンスをするなど（小学校、幼稚園、保育園にこえをかけてもらい、町南部で特に環境放射線量が高かった山木屋地区からは、学校の終業式後にそのままバスで生徒をスクリーニング会場に連れてきてもらった）、ロジ面で協力をお願いしたこともあり、647 人の調査を行うことができた。

3/30 に飯館村で測定を行った時は、測定場所の選定が更に困難であった。村全域で環境放射線量が $0.2\mu\text{Sv/h}$ を上回っており、村役場内部でも基準値を下回らなかったため、村全体を測定して回った結果、村議事堂裏の廊下部分のスペースで $0.2\mu\text{Sv/h}$ を下回ることが分かったため、ここで測定することとした。おそらく、事故後、議事堂が利

【取扱い嚴重注意】

用されていなかったために、中に入ってくる人による汚染がなかったことや、議事堂が分厚い壁で覆われた作りになっていたことから、内部の放射線量が低かったのだろうと思う。

この測定スペースが測定中に汚染されてしまうと調査に支障が出ることから、議事堂に入る前に上着を脱いでもらうなどの措置を取った。この時も、村役場職員に住民への声掛けをしてもらい、一日であったが、299人の測定を行った。

懸念していた飯館村を含め、調査対象者中に $0.2\mu\text{Sv/h}$ を超える人はいなかった。また、調査に来た人の中には、測定後にその場でどうだったか聞いてくる人も多く、こういう人には、測定値の値とその意味を説明することとしていた。保護者の方から、自分も調べてほしいとの要望があれば、保護者の方の測定も実施しているが、調査対象者数には含めていないし、保護者で $0.2\mu\text{Sv/h}$ を超えた人が出たという話も聞いていない。

なお、現地での測定は、現地対策本部で実施したが、大半は、全国の大学から応援で来てくれた人や、既に福島県内各地のスクリーニング会場に応援派遣されていた自治体職員（原発立地自治体など、スクリーニング機材を所有している自治体から、職員が応援派遣されていた）によるものである。

以 上